

目的 キュロットスカートの形態に影響を及ぼす平面製図上の諸因子のうち、本報では後股ぐりのゆとりに着目し、ゆとりを付与する方法として①後ろ腰囲線を切り開く方法（製図の外郭線に表出する部位は後股上線の長さと同中心線の傾斜角）②後股上線を垂直に下げる方法を取り上げ、その変化量が出来上がり形態にどのような影響を与えるか検討を行った。

方法 スカートの基本原型に後渡り幅として $(\text{腰部最大厚径} + 2) / 2 + 1$ を、前渡り幅として $(\text{腰部最大厚径} + 2) / 2 - 1$ を付与して股ぐりを形成し、キュロットスカートの基本型とする。試料は①の方法で7種、②の方法で4種作成しスラックス人台に着装させる。読み取り顕微鏡に望遠レンズを取り付け、脇線、裾線、腰囲線等の変化量を計測する。さらに、試料キュロットスカートに適合する体型を持つ被検者による着用感を検査した。

結果 ①の方法においては、切り開き寸法の増加に伴い脇線が広がり、前傾してくる。特に、後面に変化が大きく、後中心線が広がり、後腰囲線、後裾線が下垂していく。また、切り開き量が2cmを越えると後股下にたるみが生じてくる。②の方法においては、後股上寸法を下げるに伴い、前中央に布が押し出されてきて、下げ寸法が2cmの試料では外観上の形態が大きくくずれた。

着用感で特に問題のなかった試料は、①の方法では、切り開き寸法が0～1.5cm、②の方法では後股上線の下げ寸法が0.5～1.5cmであった。